

麻 し ん （ は し か ） に つ い て

1. 麻しん（はしか）について

- ・麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。
- ・感染力は強く、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。
- ・2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。
- ・肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1000に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。
- ・過去には、平成19年～20年に10代から20代の方を中心として全国的に麻しん（はしか）が大流行し、道内においても中学校、高校、大学などの休校が相次いだことがありました。

感染経路	飛沫・空気感染	
潜伏期	10～12日	
症 状	①カタル期	3～5日間、発熱、せき、鼻水など「かぜ」に似た症状が続く
	②発疹期	一旦熱が下がるが再び高熱が出て、顔・首・全身に発疹が現れ4～5日間続く
	③回復期	発熱はおさまり、発疹は色素沈着を残して消退する

2. 予防方法について

- ・麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。
- ・ワクチン接種が有効です。
- ・また、集団生活の場で多数に拡がる事例があることから注意してください。
- ・現在、以下の児童を対象に各市町村において定期予防接種が行われています。

《定期予防接種の対象者》

対 象 者	1歳児（生後12ヶ月～24ヶ月未満） 小学校就学前1年間（保育所・幼稚園の最年長クラス）の小児
-------	--

※実施方法や予防接種の詳細等は、お住まいの市町村の予防接種担当窓口にお問い合わせください。

3. ワクチン接種を受けた方が良い方について

- ・定期接種の対象年齢の方々（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的勧奨の対象ですが、定期接種の時期にない方で、「麻しんにかかったことがなく、ワクチンを1回も受けたことのない人」は、かかりつけの医師にご相談ください。
- ・また、平成2年4月2日以降に生まれた方は、定期接種として2回の麻しん含有ワクチンを受けることになりますが、それ以前に生まれた方は、1回のワクチン接種のみの場合が多いと思います。
- ・こうした方についても、2回目の予防接種について、かかりつけの医師にご相談ください。

4. 患者の発生状況について

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
全道	2名	13名	1名	1名	1名	0名
全国	229名	462名	35名	165名	189名	67名

※平成30年は15週目（4月15日）時点